



(((((((アトム・イヤーに過去最大規模で開催！))))))

ロボデックス

ROBODEX 2003

会期：2003年4月3日(木)～4月6日(日)(4日間) 会場：パシフィコ横浜 <http://www.robodex.org>

まつばら たくや
松原 拓也 ((有)ニコ)

アトムの年！ ロボットの年！

パートナーロボットの博覧会「ROBO DEX2003」が、2003年4月3日から4月6日まで、4日間に渡って開催された。ROBODEXは、今回で第3回目。

漫画家、故・手塚治虫氏が描いた「鉄腕アトム」。1951年の連載開始以来、ロボットのアトムが活躍するというストーリーは、多くの人々に愛され続けて、現実にはロボットの技術者を生み出すに至っている。ア



手塚プロダクション・手塚眞氏プロデュースによる「ATOM Dream Factory」。4月6日の誕生日前夜祭では、アトムの上半身が置き上がる演出が行われた。

オフィシャルアドバイザーを務めた手塚眞氏。「技術というものだけでなく、作り上げていく心を感じ取ってほしい」とのこと。



トムへの憧れは、今のロボット・ブームの原点とも言える。

今回のROBODEXは、アトムの(設定上の)誕生日である2003年4月7日に合わせて開催されている。今年は「アトム・イヤー」。現実がSFに追いつく年だ。

過去最大級の ROBODEX!

出展数は、企業(19社)・学校(13校)・団体など合わせると38、展示物は90種類と去年の1.5倍(前年は29出展・72種類)。会場は例年どおりパシフィコ横浜だが、利用スペースは1.5倍に拡張されている。結果、スケールの的にも内容的にも、過去最大級の規模を実現。ロボットに対する報道陣の注目も例年以上に熱く、海外からのプレスも多く見かけた。

この不景気な世の中だが、今後、3兆円産業に発展するとも言われるロボット産業。「世にロボットの種は尽きまじ」とも思える景気の良さだ。

会場奥のメインステージで行われた「ロボデックスパレード」では、10種類、15体以上のロボットが登場。中でも特に、ソニー「SDR-4X」が、歌と踊りを披露して、観客を楽しませていた。

「ROBODEX フォーラム」では、各界のロボット研究者達の英知が結集。最新の

研究発表や、基調講演、討論会が行われた。

倍速の「銀ASIMO」 登場!

本田技研工業「ASIMO(アシモ)」
<http://www.honda.co.jp/ASIMO/>

第1回のROBODEX(2000年)から連続出場を果たしている「ASIMO」。来場者による参加型のゲームでは、去年12月に発表された知性化技術を披露。しかし、その他の技術面の変化は、小型化した携帯コントローラ以外、特に見当たらなかった。

そんな中、会場に登場したのが、ボディが銀色に塗られた「研究・開発用モデル」。このASIMOは、時速約3kmという、従来(時速1.6km)のほぼ倍の速度で歩き、会場を驚かせていた。

ただ、この「銀ASIMO」、素早くステージに現れ、素早く去って行ってしまった。研究中のためか資料が少なく、とりあえず「手首にセンサがあり、よりしなやかに腕が動かせる」「従来より腕の可動範囲が広い」「全高・重量は従来と同じ(120cm、52kg)」ということ以外、詳しくはわからない。しかたないので、目測で歩き方を比べたが、一歩あたりの周期は1.5倍ほど速くなり、歩幅が少し広がっているようだ。人間のように腰をひねらないので、かなり